

Form A 書類 A

申請書及び申請書・現地審査チェックリスト

コラム 1	コラム 2
コミュニティ記載欄	審査員記載欄
セクション A コミュニティの概要	
<p>A.1 簡潔にコミュニティ及びその歴史的発展について記載すること</p> <p>鹿児島市は、日本の主要 4 島のうちの一つである九州の南端、鹿児島県のほぼ中央に位置し、市域面積 547.58 km²、人口 595,049 人、世帯数 276,524 世帯の都市です。</p> <p>1889 年に市制が施行され、2019 年、市制 130 周年を迎えました。政治、経済、教育、文化等の各面にわたり、高次な都市機能が集積した南九州の中核都市として発展を続けています。</p> <p>19 世紀中頃には、ヨーロッパの科学技術をいち早く取り入れ、わが国における近代工業化の発祥の地となり、「明治日本の産業革命遺産」として、2015 年 7 月に世界文化遺産に登録されました。</p> <p><u>活発な活動を続ける火山「桜島」を市街地から錦江湾をへだてわずか約 4 km の対岸に望み、(桜島や錦江湾は、2013 年に大自然の魅力を感じることができる場として「日本ジオパーク」に認定) 豊かな自然に恵まれた自然景観と、近代日本の黎明を彩る歴史や文化をもつことから、国内外の多くの観光者を魅了している国際観光都市です。</u></p> <p>(別添説明書 P1～P4 参照)</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>A.2 安全に関する全体的な方策、抱負・目標、コミュニティの取組について記載すること</p> <p>鹿児島市は、本市が将来に向けて持続可能な発展を遂げていくための市政の最上位計画である「第五次鹿児島市総合計画」(計画期間 10 年：2012～2021 年度)において、「健やかに暮らせる安全で安心なまち」を基本目標の 1 つに位置付けています。</p> <p>その中で、特に先導的かつ重点的に取り組むプロジェクトの 1 つとして、複雑多様化する地域課題に対し、市民が主役の協働のまちづくりを掲げ、様々な施策を体系的に進めています。</p> <p>また、2005 年に制定した「鹿児島市安心安全まちづくり条例」に基づき、自らの安全は自らで守るとの基本理念のもと、市と市民、事業者等が連携し、協働による安心安全なまちづくりを展開してきています。</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>

<p>鹿児島市は、これらの計画や条例に基づき、地域住民、行政、関係団体などが協働しながらセーフコミュニティに継続して取り組むとともに、取組の全市的な展開を図ることにより、これまで以上に事故やけがの減少を図り、市民が生涯にわたって安心して暮らせる安全なまちづくりを推進しています。</p> <p>(別添説明書 P7・P143 参照)</p>	
<p>A.3 首長（および同等の立場）及び実行委員会（議会）はどのようにかかわっているか？だれが、分野横断的なグループをまとめているか。</p> <p>鹿児島市長は、セーフコミュニティ活動のかじ取り役である鹿児島市セーフコミュニティ推進協議会の会長として、分野を越えた協働・連携によるセーフコミュニティ活動を包括的に管理、推進しています。</p> <p>鹿児島市議会は、セーフコミュニティの推進に関する予算の審議や地域の安全性の向上に向けた提言等を行っています。</p> <p>(別添説明書 P23～27 参照)</p>	<p>記述は十分か？ 首長は関わっているか？</p> <p><input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>実行委員会に関わっているか？</p> <p><input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>どこが分野横断的なグループをまとめているか？</p> <p>..... ...</p>
<p>A.4 コミュニティにおけるリスクの概観を示すこと</p> <p>鹿児島市では、傷害に関するデータ収集等を行う外傷サーベイランス委員会等において、G1（P20）に記載しているような様々な事故やけがに関するデータ等による地域診断を行い、その結果、次のリスクが明らかになり、7つの重点課題を設定しています。</p> <p>①交通安全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不慮の要因による死亡のうち約17%が交通事故である。 ・救急搬送者の約3割が交通事故に起因している。 ・年間1万8千件の交通事故が発生し、約2,300人が死傷している。 <p>②学校の安全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学生の事故等が発生した場所は、「学校」が45.3%で最も多く発生している。 ・小学生で約14人に1件、中学生で約9人に1件の割合でけがによる治療を受けている。 <p>※小学生：満7～12歳 中学生：満13～15歳</p> <p>③子どもの安全（未就学児の家庭内等での事故やけがに対する取組）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救急搬送者のうち、0～6歳では、「一般負傷」が約8割を占めており、0～17歳の全搬送者の3割を超えている。 	<p>リスクの外観は十分に記述されているか？</p> <p><input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>

・児童虐待に関する相談件数は年々増加しており、児童虐待の実態が依然としてある。

④高齢者の安全

- ・不慮の要因による死亡のうち高齢者（65歳以上）が約8割を占めている。
- ・救急搬送者のうち、高齢者が約5割を占めている。
- ・高齢者虐待に関する相談件数は、増加傾向にある。

⑤DV（ドメスティック・バイオレンス）防止

- ・DVに関する相談件数は、横ばい傾向にあり、DV被害の実態が依然としてある。

⑥自殺予防

- ・外的要因による年齢層別死亡順位では、10代から70代まで自殺が1位となっている。
- ・年間に約100人が自殺で死亡している。

⑦防災・災害対策

- ・桜島では1914年の最後の大噴火（※）から106年が経過し、マグマの蓄積状況から同様の噴火がいつ起こってもおかしくない状況にあり、大噴火により甚大な被害が発生する恐れがある。
- ・桜島内には外周道路が1本しかなく、大噴火により寸断されれば孤立する恐れがある。

※溶岩流や大きな噴石等により、家屋被害が約2,500棟発生し、死者・行方不明者は58名にのぼった。

また、大量の降灰による河川の氾濫や噴火に伴う地震により鹿児島市街地でも崖崩れが起こるなど、甚大な被害が発生しました。

（別添説明書 P22 参照）

セクション B コミュニティの構造	
<p>B.1. 人口動態構造¹について説明すること</p> <p>鹿児島市の人口は、2004 年、隣接する 5 町との合併で約 5 万人増加し、以後、およそ 60 万人で推移していましたが、日本各地で人口減少が進む中、2015 年には減少に転じ、2020 年 1 月 1 日現在で、595,049 人となっています。</p> <p>年齢別人口は、15 歳未満の年少人口や 15 歳から 64 歳までの生産年齢人口がともに減少する中、65 歳以上の老年人口が増加傾向にあります。</p> <p>世帯構成でみると、単独世帯が増加を続ける中、特に 65 歳以上の高齢者単独世帯の増が顕著となっています。</p> <p>また、産業別就業人口では、第 3 次産業の割合が増加しており 8 割を占めています。</p> <p>○人口構成比（2015 年）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 15 歳未満の年少人口 13.8% ・ 15 歳から 64 歳までの生産年齢人口 61.3% ・ 65 歳以上の老年人口 24.8% <p>○世帯構成（2015 年）・伸び率（2010 年比）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一般世帯 269,643 ・ 102.1% ・ うち単独世帯 105,105 ・ 108.9% ・ うち 65 歳以上の高齢者単独世帯 32,371 ・ 117.1% <p>○産業別就業人口（2015 年）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第 1 次産業（農業、林業など） 1.3% ・ 第 2 次産業（建設業、製造業など） 14.8% ・ 第 3 次産業（卸売業・小売業、医療・福祉など） 80.2% <p>（別添説明書 P2～P6 参照）</p>	<p>人口動態構造とリスクについて十分に記述されているか？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>B.2. 現在の安全向上・傷害予防（の取組）および今後の計画について示すこと</p> <p>鹿児島市行政は、これまでも総合計画をはじめ、各セクションで定める個別計画の中で、両性、全年齢、あらゆる環境を対象に、安心、安全、外傷予防に向けた取組を行ってきました。</p> <p>取組にあたっては、県警察や市消防局、市保健所などの専門的なセクションからの支援、協力のもと、「安心安全まちづくり条例」に基づき、市と市民、事業者等が協働して安心、安全なまちづくりを推進しています。</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>

<p>加えて、2012年度から10年間を計画期間とする第5次総合計画において、事故やけがの防止に向けて、セーフコミュニティの手法を導入することとし、2013年1月に取組宣言を行い、地域の多様な人材や資源の活用・活性化を図りながら、地域の特性を生かしたまちづくりを行うことで、安全性を高め、2016年1月に国際認証を取得しました。</p> <p>今後も、計画に基づき、長期的にセーフコミュニティ活動を展開し、生涯にわたって安心安全に暮らせるまちづくりを推進していきます。</p> <p>(別添説明書 P7・P143 参照)</p>	
<p>B.3 コミュニティの地方政治家による継続的な傷害予防への支援について記載する。また、プログラムのどのような部分がより大きな単位の地方政治によって担当・支援されているか</p> <p>行政の長であり政治家でもある鹿児島市長が鹿児島市セーフコミュニティ推進協議会の会長となり、分野を越えた協働・連携によるセーフコミュニティ活動を包括的に管理、推進しています。</p> <p>より大きな単位の地方政治の協力としては、県警察がセーフコミュニティの取組を総合的かつ効果的に支援するため、「セーフコミュニティ支援推進委員会」を設置し、委員就任や統計データ等の情報提供などの支援を行っています。</p> <p>また、セーフコミュニティの推進にあたり、鹿児島県の関係部署や国の機関である、鹿児島地方気象台、鹿児島労働基準監督署、自衛隊鹿児島地方協力本部などが各分野の対策委員会等の委員として参画し、共に取組を進めています。</p> <p>(別添説明書 P22～P27 参照)</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>B.4 すでに策定された安全向上・傷害予防の取組を推進するための方策（戦略）について述べよ</p> <p>鹿児島市行政では、前述の総合計画をベースに、各セクションで定める個別計画に基づき安心安全なまちづくりのための取組を進めています。</p> <p>本市が重点課題に設定している7分野においては、個別計画の中にセーフコミュニティの手法による外傷予防の取組の推進も掲げています。</p> <p>(例)</p> <p>①交通安全</p> <p>・第10次鹿児島市交通安全計画（2016～2020年度）</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>

<p>②学校の安全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鹿児島市の教育 <p>③子どもの安全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2期鹿児島市子ども・子育て支援事業計画（2020~2024年度） <p>④高齢者の安全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第7期鹿児島市高齢者保健福祉・介護保険事業計画（2018~2020年度） <p>⑤DV防止</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2次鹿児島市男女共同参画計画（2012~2021年度） <p>⑥自殺予防</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鹿児島市自殺対策計画（2018~2022年度） <p>⑦防災・災害対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鹿児島市地域防災計画 ・鹿児島市国土強靱化地域計画 <p>これに加えて、地域においても、町内会（地域住民自治組織）や自主防災組織などの市民による地域組織が防犯パトロールや防災訓練といった取組を積極的に展開しています。</p>	
<p>B.5 だれ（どこ）が安全向上・傷害予防プログラムの責任者か、そして地域の政治及び行政組織においてどこに位置しているか。</p> <p>鹿児島市長 森 博幸（鹿児島市役所）</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>B.6 安全向上・傷害予防プログラムを担当している（取りまとめている）ユニット（部署等）はどこか</p> <p>鹿児島市役所 危機管理局 安心安全課</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>B.7 セーフコミュニティは、継続的なプログラムかプロジェクトか？</p> <p>鹿児島市において、セーフコミュニティの推進は、市政の長期的な運営方針を定める総合計画に掲げる継続的なプログラムです。</p> <p>計画に基づき、地域住民、関係団体等との協働のもと、取組を全市的に展開し、取組の評価・検証を行いながら、継続して事故やけがの予防に取り組み、世界基準の安心安全なまちづくりを推進しています。</p> <p>（別添説明書 P7・P143 参照）</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>

<p>B.8 全コミュニティをカバーしている地方政治家によって具体的な目標は設定されているか？それは、何か？</p> <p>市長の指揮のもと策定された第五次鹿児島市総合計画をはじめとする B.4 (P5) に示した各セクションで定める個別計画ごとに、安全向上・傷害予防に関する具体的な目標が設定されています。</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>B.9 その目標を導入したのはだれか？</p> <p>鹿児島市長 森 博幸（鹿児島市役所）</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>B.10 どのようにその SC 目標は評価され、だれにその結果が報告されるか？</p> <p>7つの重点分野に関しては、分野別対策委員会で取組ごとに設定した成果指標に基づき、それぞれの対策委員会で短期（知識・認識）、中期（態度・行動）、長期（状況）へのインパクトを評価します。</p> <p>また、外傷サーベイランス委員会において統計データ等の分析をもとに全分野の評価を行います。</p> <p>これらの評価結果は、鹿児島市セーフコミュニティ推進協議会に報告され、そこで内部評価を行うとともに、ホームページ等を通して市民等へ周知しています。</p> <p>さらに、すべての結果を年間活動報告書にまとめ、日本セーフコミュニティ推進機構に提出し、外部評価を受けています。</p> <p>（別添説明書 P131）</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>B11. 安全向上のために経済的な動機は活用されているか？使われている場合は、どのように？</p> <p>安全向上の取組を継続し、事故やけがが減少することにより、行政としては、医療費はもとより、各対策分野におけるハード面、ソフト面での対策経費の削減が期待できると考えています。</p> <p>また、地域住民の主体的な活動を促進するため、「鹿児島市地域安心安全ネットワーク会議（学校や町内会等で構成する地域の安心安全に関する活動に取り組む団体）」（80 団体）に対し、危険箇所の環境診断やセーフコミュニティの交通安全分野及び高齢者の安全分野の取組等に要する経費の一部を助成しています。</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>

<p>B12.安全向上のための地域レベルでの規制はあるか？ある場合は説明を。</p> <p>鹿児島市では、次のような規制を設けています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・暴力団排除に関し、市民が暴力団の威力を利用すること等を禁止する「鹿児島市暴力団排除条例」 ・配偶者等に対して身体的又は精神的な苦痛を与える行為等を禁止する「鹿児島市男女共同参画推進条例」 ・生活道路における歩行者や自転車の安全を確保するために 30 km/h の速度規制を行う「ゾーン 30 の設定」 ・児童生徒の安全を確保するための「スクールゾーンの設定」、「通学路の指定」 など 	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>セクション C 【指標 1】</p>	
<p>C.1 安全向上・傷害予防プログラムの管理・調整・企画を担う分野横断的なグループについて述べよ。</p> <p>鹿児島市では、セーフコミュニティ推進にあたり、次のとおり、分野横断的な組織を設置しています。</p> <p>○セーフコミュニティ推進協議会</p> <p>市医師会、鹿児島大学、鹿児島県警察など安心安全なまちづくりに携わる関係団体等の代表者など、32 人で構成されています。</p> <p>セーフコミュニティの推進母体として、推進方針の決定などを担っています。</p> <p>○外傷サーベイランス委員会</p> <p>(P19～20 セクション G 【指標 5】 参照)</p> <p>市保健所や市医師会、市消防局など保健、医療、消防等の関係機関、9 人で構成されています。</p> <p>外傷データ等の収集、分析や課題の抽出のほか、プログラムの評価・検証などを担っています。</p> <p>○分野別対策委員会</p> <p>重点課題である「交通安全」、「学校の安全」、「子どもの安全」、「高齢者の安全」、「DV防止」、「自殺予防」、「防災・災害対策」の 7 つの分野ごとに設置しています。</p> <p>地域コミュニティ協議会、鹿児島大学、鹿児島地方気象台など各分野に関係する住民組織や学識経験者、防災機関などで構成されています。</p> <p>7 分野それぞれの領域の重点課題の解決に向けた具体的な取組の検討・実施などを担っています。</p> <p>(別添説明書 P23～27、P131 参照)</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>

<p>C.2 当該地域の政府および保健分野はどのように安全向上・傷害予防において協働しているか述べてよ。</p> <p>市関係課や市消防局、鹿児島県、鹿児島県警察などの行政機関（政府）及び市保健所や市医師会、市薬剤師会、鹿児島県看護協会、鹿児島県臨床心理士会などの保健分野は、関係分野の対策委員会に委員として参画し、セーフコミュニティ活動に関する外傷データの提供や人的・物的な面からの社会資源の提供などについて協力、支援を行っています。</p> <p>（別添説明書 P24～27 参照）</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>C.3 赤十字、退職者組織、スポーツ組織、保護者学校組織などの NGO が安全向上・傷害予防に関わっているか</p> <p>鹿児島市では、次の多様な NGO 団体がセーフコミュニティに加わっています。</p> <p>○セーフコミュニティの推進メンバーである NGO 団体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者組織：市老人クラブ連合会、高齢者介護予防協会 かごしま など ・住民組織：皇徳寺台東町内会、吉野校区安心安全ネットワーク 会議、桜洲校区コミュニティ協議会 など ・医療・福祉等関係組織：市民生委員児童委員協議会、市社会福祉協議会、市医師会、鹿児島県看護協会 など <p>（別添説明書 P24～27 参照）</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>C.4 一般市民にハイリスクの環境や状況について知らせる仕組みがあるか？</p> <p>鹿児島市では、次のような方法で市民に市のリスクを示しています。</p> <p>また、市民のセーフコミュニティに関する理解や主体的な活動を促進するため年 2 回、地域住民や関係団体等を対象にセーフコミュニティ推進フォーラムを開催しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市広報紙や市ホームページによる情報発信 ○セーフコミュニティの取組等を掲載したパンフレットの配布 ○イベント等でのパネル展示やブース出展、大型商業施設での街頭キャンペーン ○小中学生向けに事故やけがの予防ポイントを分かりやすく解説したハンドブックの配布 	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>

<p>○取組団体等へ最新の外傷データや活動事例等を紹介するかわら版の配布</p> <p>○防災行政無線や個別受信機を活用した避難情報等の提供</p> <p>また、鹿児島市では、次のような各種広聴制度により、市民がハイリスクの環境や状況を含め、市政全般に関する情報や意見・要望等を市に知らせる仕組みを設けている。</p> <p>○市民相談センターでの窓口相談</p> <p>○市民相談カードによる相談受付</p> <p>○市政モニターによる調査広聴 など</p> <p>このほか、個別の分野におけるハイリスクの環境や状況を知らせる仕組みとして、以下のものなどがあります。</p> <p>○交通事故等の危険箇所の改善を要望する「交通安全要望」の仕組み</p> <p>○自殺やDV、虐待に関する通報・相談窓口</p> <p>(別添説明書 P29～30 参照)</p>	
--	--

<p>C.5 どのように取組(work)が持続可能な方法で組織化(体系化)されているかを述べよ</p> <p>鹿児島市におけるセーフコミュニティの推進体制は、各設置要綱に基づき、推進母体である「鹿児島市セーフコミュニティ推進協議会」を中心に、「鹿児島市外傷サーベイランス委員会」、7つの「分野別対策委員会」を設置しています。</p> <p>これらの組織が双方向的に協働・連携し、継続的な仕組みであるSPDCAサイクルを構築し、運営しています。</p> <p>また、セーフコミュニティの推進を鹿児島市の<u>長期的な市政の運営方針を定める総合計画に位置付け、地域住民、行政、関係団体等が協働した傷害予防の取組を継続しています。</u></p> <p>(別添説明書 P23～27・P131)</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
---	---

セクションD 【指標2】	
<p>D.1 下記の領域における安全向上・傷害予防に関する継続的な取組について記載すること。また、特定のNGOはじめ各分野がどのようにかかわっているかを述べよ。</p> <p>1.交通安全</p> <p>2.家庭の安全および余暇時間の安全</p> <p>3.子どもの安全</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>

4.高齢者の安全

5.労働安全

6.暴力予防

7.自殺予防

8.防災および災害対策

9.公共（場）の安全

10.病院の安全

11.スポーツの安全

12.水の安全

13.学校の安全（セーフスクール）

これらのうち、コミュニティではなく、他の組織や機関によって担われているものはあるか？それについて、コミュニティはどのようにかかわっているか？

鹿児島市では、行政、地域住民、関係団体等が各々、または連携しながら、安心安全に関するさまざまな取組（194事業）を行っています。

前述の1～13で示されている領域に対応する本市における取組領域と取組数については、下の表のとおりです。

鹿児島市の取組領域		子ども (0～14歳)	青年 (15～24歳)	成人 (25～64歳)	高齢者 (65歳～)
	D. 1の領域	No.3			No.4
不慮の 要因	①家庭の安全	No.2 29 B・C	20 C・D	25 C・D	46 C・D
	②学校の安全	No.13 7 E	7 E		
	③職場の安全	No.5	9 G	9 G	7 G
	④余暇・スポーツ の安全	No.2.11 6 K	4 J	4 J	5 J
	⑤公共の安全	No.9.10.12 33 N・O・Q	33 N・O・Q	30 N・O・Q	30 N・O・Q
	⑥交通安全	No.1 17 T	15 T	15 T	16 T
	⑦自然災害	No.8 28 U	27 U	27 U	27 U
意図的 要因	⑧暴力 (DV, 虐待含)	No.6 11 X	14 X	8 X	9 X
	⑨自傷・自死	No.7 5 Z	7 Z	7 Z	6 Z

また、各領域における主な取組は次のとおりです。

(別添説明書 P31～38 参照)

※取組のアルファベットは、別添説明書 32 ページ以降の「主な予防活動」の記号と対応しています。

※実施者（関係者）の下線は、NGO を示しています。NGO については、C.3 (P9) を参照。

<p>1.交通安全 ※セーフコミュニティ重点7分野にて取組中 T ゾーン30の整備 【実施者（関係者）】鹿児島県警察、市</p> <p>2.家庭の安全および余暇時間の安全 C 安心安全住宅ストック支援事業 【実施者（関係者）】市</p> <p>3.子どもの安全 ※セーフコミュニティ重点7分野にて取組中 B 育児支援家庭訪問事業 【実施者（関係者）】市、<u>鹿児島県助産師会</u></p> <p>4.高齢者の安全 ※セーフコミュニティ重点7分野にて取組中 D 認知症あんしんセミナー 【実施者（関係者）】市、<u>高齢者介護予防協会かごしま</u></p> <p>5.労働安全 G 労働相談 【実施者（関係者）】市、鹿児島労働基準監督署</p> <p>6.暴力予防 ※セーフコミュニティ重点7分野にて取組中 X 男女共同参画センター運営事業（相談事業） 【実施者（関係者）】市</p> <p>7.自殺予防 ※セーフコミュニティ重点7分野にて取組中 Z 自殺に関する相談 【実施者（関係者）】<u>鹿児島いのちの電話協会</u>、<u>市医師会</u>、<u>県臨床心理士会</u>、市など</p> <p>8.防災および災害対策 ※セーフコミュニティ重点7分野にて取組中 U 自主防災組織育成 【実施者（関係者）】市、<u>町内会</u></p> <p>9.公共（場）の安全 N 地域安心安全ネットワーク会議活動支援 【実施者（関係者）】市、<u>地域安心安全ネットワーク会議</u>、<u>地域コミュニティ協議会</u></p>	
--	--

<p>10.病院の安全</p> <p>○ 市立病院安心安全に関する職員全体研修 【実施者（関係者）】鹿児島市立病院</p> <p>11.スポーツの安全</p> <p>J 社会体育指導者の養成 【実施者（関係者）】市</p> <p>K スポーツ少年団指導者研修会 【実施者（関係者）】市、<u>スポーツ少年団</u></p> <p>12.水の安全</p> <p>Q 水難救助訓練 【実施者（関係者）】市、<u>漁業協同組合</u>、鹿児島海上保安部 など</p> <p>13.学校の安全 ※セーフコミュニティ重点7分野にて取組中</p> <p>E 地域ぐるみの学校安全体制整備 【実施者（関係者）】市教育委員会、<u>スクールガード・リーダー</u> など</p>	
<p>D.2 両性、全年齢層、全環境・状況に関する取組を記載すること。「転倒予防」などすべての取組について記載し、どのようにその取組が行われているかを述べよ</p> <p>D.1 に同じ</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>

<p>セクション E 【指標 3】</p>	
<p>E.1 全てのハイリスクにあるグループを把握し、安全を向上するためにどのような対策を講じたのかを述べよ。ハイリスクにあるグループとは、下記のようなグループがよく挙げられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.先住民 2.低所得層 3.コミュニティ（職場を含む）における少数（マイノリティ）集団 4.犯罪被害や自傷を含む意図的要因による外傷のリスクにある人 5.虐待をうける女性・男性・子ども 6.精神的疾患、発達障害および他の障害を有する人 7.安全でないスポーツ、余暇活動に参加している人 8.ホームレス 	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>

- 9.自然災害において外傷のハイリスクにある人
 10.特定の道路や交差点、水害被害想定地などハイリスクの環境の近くで生活したり働いたりしている人
 11.宗教、民族および性的な嗜好によりハイリスクにある人

鹿児島市では、次の理由から外傷のハイリスクグループを設定し、重点的に予防活動を行っています。

①自殺リスクの高い50・60歳代の人

設定理由	<ul style="list-style-type: none"> ・一年間で100人前後の人が自殺で死亡している実態がある。 ・特に50歳代・60歳代が多い。
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・自殺予防の普及啓発（広報・周知やメンタルヘルス講演会等の実施） ・50～69歳の周囲の人への支援（ゲートキーパー養成講座の開催） ・相談しやすい場の設定 ・相談窓口の周知
実施者	<ul style="list-style-type: none"> ・鹿児島いのちの電話協会、県医師会、県弁護士会、県司法書士会、鹿児島県警察、鹿児島市 等

②虐待を受ける子ども

設定理由	<ul style="list-style-type: none"> ・2019年度の児童虐待に関する相談件数（県児童相談所受付の本市分及び本市受付合算件数）は1,368件あり、児童虐待の実態が依然としてある。 ・児童虐待認定件数（本市受付分）を年齢別にみると、就学前児童が過半数を占めている。
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てに悩みがある保護者の相談及び子育ての体験談の情報発信 ・児童虐待予防の学習会
実施者	<ul style="list-style-type: none"> ・取組団体、鹿児島子どもの虐待問題研究会、鹿児島市 など

③転倒によりけがをしやすい高齢者

設定理由	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の一般負傷による救急搬送は転倒・転落が圧倒的に多い。 ・不慮の事故による高齢者の死亡原因は転倒・転落が多い。
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・転倒予防のための料理教室、講演会、転倒予防教室の実施 ・住環境の改善
実施者	<ul style="list-style-type: none"> ・皇徳寺台東町内会、市健康づくり推進員協議会、市食生活改善推進員連絡協議会、鹿児島市 など

④虐待（DV：ドメスティック・バイオレンス）を受ける女性

設定理由	<ul style="list-style-type: none"> ・相談件数は横ばい傾向であり、被害経験は女性の方が多い。 ・DVへの理解が不十分で、サービスに関する情報が届いていない。 	
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・DV防止のための啓発講座や研修会等の実施 ・相談員の資質向上（DV被害者支援啓発講座等の開催） 	
実施者	<ul style="list-style-type: none"> ・県弁護士会、市医師会、県臨床心理士会、かごしまピア研究会、ピア☆びあ☆かごしま（デートDVの予防活動を行う学生ボランティア団体）、鹿児島県警察、鹿児島県、鹿児島市 など 	
⑤高齢運転者 ※ 2017年に「夜間・歩行中の高齢者」から変更		
設定理由	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢運転者を第1当事者とする交通事故死傷者の割合が年々増加している。 	
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・参加・体験型の交通安全教室等の開催 	
実施者	<ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティ協議会、地域安心安全ネットワーク会議、鹿児島県警察、鹿児島県交通安全協会、鹿児島県指定自動車教習所協会、鹿児島市 など 	
⑥ハイリスク環境の近くで生活する人		
設定理由	<ul style="list-style-type: none"> ・桜島はこの1,000年間で4回の大噴火が繰り返されている。 ・マグマの蓄積は、大正噴火が起こる前の9割に達している。 ・大噴火が起これば、大量の噴石・降灰・火砕流や溶岩流などにより甚大な被害が発生するほか、噴火に伴う地震や津波、降灰の堆積に起因する土砂災害など複合的な災害に派生する恐れがある。 ・島内には約4,000人が居住しており、訪れる観光客も多いが、1本しかない外周道路が大噴火により寸断されれば孤立する恐れがある。 	
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・住民の避難状況の把握（住民一覧表の作成） ・避難行動要支援者の避難体制の確立 ・避難訓練の充実強化 	
実施者	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会、市消防団、民生委員、鹿児島市 など 	
E.2 ハイリスク環境の事例を挙げよ 1.どのようにハイリスク環境を設定しているか述べよ 2.優先的集団や環境について述べよ 3.それらに対し、コミュニティでは特定のプログラムがあるか 4.取組のタイムテーブルについて述べよ 5.それらのグループは、それらの活動の予防的側面にかかわっているか		記述は十分か？ <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ 「いいえ」の場合、不十分な点は何か：

鹿児島市では、次の理由から外傷のハイリスク環境を設定し、重点的に予防活動を行っています。

①火山活動による災害が予測される地域

設定理由	<ul style="list-style-type: none"> ・桜島はこの 1,000 年間で 4 回の大噴火が繰り返されている。 ・マグマの蓄積は、大正噴火が起こる前の 9 割に達している。 ・大噴火が起これば、大量の噴石・降灰・火砕流や溶岩流などにより甚大な被害が発生するほか、噴火に伴う地震や津波、降灰の堆積に起因する土砂災害など複合的な災害に派生する恐れがある。 ・島内には約 4,000 人が居住しており、訪れる観光客も多いが、1 本しかない外周道路が大噴火により寸断されれば孤立する恐れがある。
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・住民の避難状況の把握 (住民一覧表の作成：2014 年～、年 1 回更新) ・避難行動要支援者の避難体制の確立 (2014 年～、年 1 回程度協議・検討) ・避難訓練の充実強化 (住民避難マニュアル等の配布：2014 年～、年 1 回程度マニュアルの見直し及び配布) (避難訓練：従来から、毎年 1 月実施)
実施者	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会、市消防団、民生委員、鹿児島市 など
活動の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・年 1 回、地域住民をはじめ、関係団体、行政等が協働し、桜島火山爆発に特化した防災訓練を実施する。 など
主体的な関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民、町内会（自主防災組織）、消防団等が一体となり、避難訓練等を実施している。

セクション F【指標 4】		
<p>F.1 それぞれの年齢層、環境に対して行われた根拠に基づいた方策（戦略）/プログラムについて述べよ</p> <p>鹿児島市では、地域診断から重点的に取り組む7つの分野を決定し、既に効果が証明されている取組を参考に地域の実情に合わせた次のようなプログラムを実施しています。</p>		<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か？</p>
重点取組分野	取組	別添説明書参照頁
a.交通安全	シートベルト着用の啓発活動（全席シートベルトの着用）	P 52
	企業等への交通安全講習等	P 53
	参加・体験型の交通安全教室等	P 54
	高齢者の世帯訪問による交通安全教育	P 55
	夜光反射材の着用啓発	P 56
	保護者等も含めた参加体験型の交通安全教育等（歩行中の未就学児・小学生向け）	P 57
	保護者等も含めた参加体験型の交通安全教育等（自転車乗車中の小中学生向け）	P 58
	交通安全マップの作成	P 59
b.学校の安全	けが防止を呼びかける「校内パトロール」	P 66
	「危険箇所マップづくり」	P 67
	「『危険』などの表示」	P 68
	「ポスターの掲示」	P 69
	「集会活動での呼びかけ」	P 70
	部活動中のけがを防止するための「入念な準備運動」	P 71
	部活動中のけがを防止するための「キャプテン会議の開催」	P 72
c.子どもの安全	家庭内等での事故・けがに関する情報の発信	P 78
	児童への安全教育	P 79
	職員による室内、園庭等の安全点検	P 80
	体力・運動能力の向上を目的とした活動	P 81
	子育てに悩みがある保護者の相談及び子育て体験談の情報発信	P 82
	児童虐待予防の学習会	P 83
d.高齢者の安全	転倒予防のための料理教室・講習会の実施	P 91
	転倒予防教室の実施	P 92
	住環境の改善	P 93
	認知症に関する意識啓発	P 94
	高齢者世帯への見守り活動	P 95

e.DV防止	DV防止のための情報提供及び啓発（DVの被害者・加害者を含めた市民全般向け）	P103
	相談員の資質向上	P104
	DV防止のための情報提供及び啓発、若者による若者のための暴力未然防止活動	P105
	DV防止のための情報提供及び啓発（10～20歳代の社会人向け）	P106
f.自殺予防	自殺予防の普及啓発	P112
	50～69歳の周囲の人への支援	P113
	相談しやすい場の設定	P114
	相談窓口の周知	P115
g.防災・災害対策	住民の避難状況の把握	P123
	避難行動要支援者の避難体制確立	P124
	避難訓練の充実強化	P125

7つの分野の取組は、全年齢層・全環境に対する安全性向上、傷害予防に向けた鹿児島市の取組及びD.1、D.2に示す1～13の取組領域のうち下表のような年齢層・環境に対応しています。

※表中のアルファベットは、上の表の「重点取組分野」の記号と対応しています。

鹿児島市の取組領域			子ども (0～14歳)	青年 (15～24歳)	成人 (25～64歳)	高齢者 (65歳～)
		D.1の領域	No.3			No.4
不慮の 要因	①家庭の安全	No.2	c			d
	②学校の安全	No.13	b	b		
	③職場の安全	No.5				
	④余暇・スポーツの安全	No.2.11	b	b		
	⑤公共の安全	No.9.10.12	c			d
	⑥交通安全	No.1	a	a	a	a
	⑦自然災害	No.8	g	g	g	g
意図的 要因	⑧暴力 (DV,虐待含)	No.6	c	e	e	d・e
	⑨自傷・自死	No.7	f	f	f	f

プログラムの実施により、高齢者の交通事故死傷者数の減少、幼稚園等での児童の事故・けがの減少、自殺死亡者数の減少など様々な成果が出てきています。（別添説明書 P135～P139 参照）

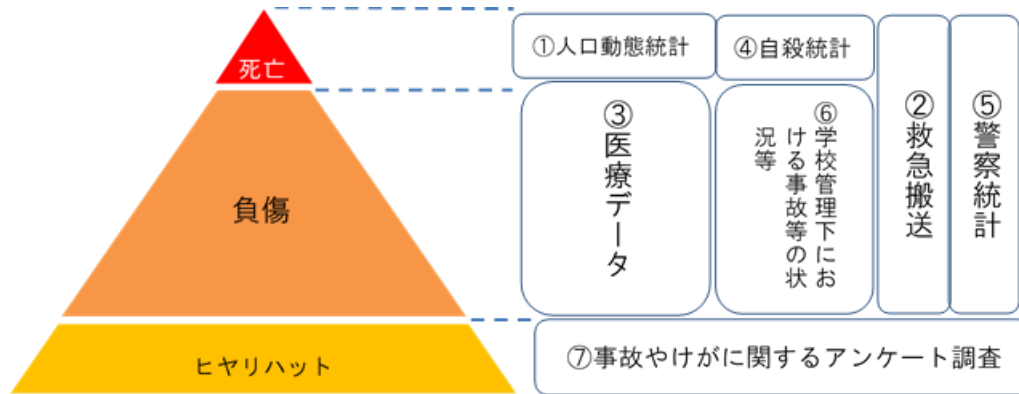
<p>F.2 根拠に基づいた方策（戦略）を企画・実践するにあたって支援センター、認証センター及び他の学術的あるいは知識を有する組織との連絡体制を持っているか。それはどの組織か？どのような範囲においてか？</p> <p>鹿児島市では、国際認証に向けた事前指導を認証センターに依頼し、公式認証審査員を招聘して活動に対するアドバイスをいただいたほか、支援センターである日本セーフコミュニティ推進機構に活動の支援業務を委託し、セーフコミュニティの取組全般への支援や年間活動報告書による外部評価を受けるとともに、セーフコミュニティ推進協議会、外傷サーベイランス委員会の委員として参画いただき、助言等をいただいています。</p> <p>学術的組織としては、市医師会や鹿児島県臨床心理士会、鹿児島大学、京都大学などが外傷サーベイランス委員会や分野別対策委員会等の委員として参画いただき、データの収集や分析、成果指標の評価などに関し、専門的見地から助言や支援等をいただいています。</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
--	---

セクション G 【指標 5】

G.1 傷害予防の方策を決定するにあたって用いるデータは何か?例えば、外傷記録は病院、保健センター、歯科医院、学校、高齢者介護組織、そして警察等で記録されている。家庭調査も外傷やリスクのある環境・状況のデータ収集に活用できる。どのような方法が用いられているか?

日本では、傷害や事故に関するデータを一元的に収集・分析する仕組みがないことから、各自治体で独自に収集・分析しています。

鹿児島市では、外傷の程度により次のような外傷に関するデータを収集し、分析に活用しています。



外傷の程度	記録データ	記録内容	収集頻度	提供元	収集・分析
① 死亡	人口動態統計 (かごしま市の保健と福祉)	不慮の事故、自殺等に関する死亡状況	毎年	市健康福祉局	外傷サーベイランス委員会
② 死亡 負傷	救急搬送 (消防年報)	事故種別 (交通事故等) 搬送状況	毎年	市消防局	外傷サーベイランス委員会
③ 負傷	医療データ (鹿児島市内3病院)	傷病区分別入院状況	毎年	鹿児島市内の3病院	外傷サーベイランス委員会
④ 死亡	自殺統計原票データの特別集計	自殺に関する死亡状況	毎年	厚生労働省	自殺予防対策委員会
⑤ 死亡 負傷	警察統計 (交通事故統計分析表)	交通事故による死亡、負傷状況	毎年	鹿児島県警	交通安全対策委員会
⑥ 負傷	学校の管理下における事故等の状況 (日本スポーツ振興センター災害共済給付データ)	児童・生徒の災害共済給付金対象の事故等の状況	毎年	日本スポーツ振興センター	学校の安全対策委員会
⑦ ヒヤリ	事故やけがに関するアンケート調査	ヒヤリハットの経験など事故やけがに関する調査	定期	—	外傷サーベイランス委員会
⑧ その他	取組状況調査 (児童生徒用)	モデル校の小中学生を対象としたけが防止の取組に対する認知度及び実践度	毎年	—	学校の安全対策委員会
⑨ その他	児童虐待相談件数	児童虐待に関する相談状況	毎年	県児童相談所及び市健康福祉局	子どもの安全対策委員会
⑩ その他	介護保険認定状況	介護保険の認定状況	毎年	市健康福祉局	高齢者の安全対策委員会
⑪ その他	高齢者虐待に関する相談件数	高齢者虐待に関する相談状況	毎年	市健康福祉局	高齢者の安全対策委員会
⑫ その他	DV (ドメスティック・バイオレンス) 相談件数	DVに関する相談状況	毎年	市市民局	DV防止対策委員会
⑬ その他	男女共同参画に関する市民意識調査	男女共同参画に関する市民の意識と実態	随時	—	DV防止対策委員会
⑭ その他	桜島噴火回数・爆発回数	桜島の噴火及び爆発の状況	毎年	鹿児島地方気象台	防災・災害対策委員会

記述は十分か?

はい

いいえ

「いいえ」の場合、不十分な点は何か:

<p>G.2 安全向上・傷害予防を推進するため、どのようにデータが提示されているか述べよ</p> <p>鹿児島市では、G 1 (P20) の表にあるように、外傷に関する既存の統計データについては、外傷サーベイランス委員会や分野別対策委員会において、所属団体や関係機関へ提供を依頼し、収集しています。</p> <p>また、既存の調査でカバーできないデータについては、委員会の事務局において、独自に調査を行い、収集しています。</p> <p>(別添説明書 P126～127 参照)</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>G.3 どのように傷害の原因、リスク、ハイリスクの環境に関して記録し、その知識を活用するかを述べよ。どのように継続的な進捗を記録するか？</p> <p>鹿児島市では、G 1 (P20) の表にあるように、外傷サーベイランス委員会において、消防・医療機関等の理解、協力のもと、市の全体的な傷害の発生状況やリスク等を記録するデータとして、救急搬送や医療データ等を継続的に収集・分析し、各対策委員会に情報提供しています。</p> <p>各対策委員会では、提供されたデータ等を、課題の把握や取組の効果の測定等に活用しています。</p> <p>また、各対策委員会においても、より具体的な課題の把握や取組の効果測定するため、関係機関等の理解、協力のもと、個別に必要なデータを継続的に収集しています。</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>

セクション H【指標 6】	
<p>H.1 プログラムからの傾向や結果を追跡するため、どのように傷害データを分析するか。何がうまく機能していて、よい結果をもたらしているか？何を継続しようと計画しているか？何を変更しなくてはならないか？</p> <p>日本では、傷害や事故に関するデータを一元的に収集・分析する仕組みがないことから、鹿児島市では、G 1 (P20) で示した既存の統計データ等を収集し、外傷の発生状況やリスク等に関するデータを抽出・加工して、分析に活用しています。</p> <p>このうち、救急搬送や医療データなど、市の全体的な傷害の発生状況やリスク等を記録するデータについては、外傷サーベイランス委員会事務局で収集し、加工・整理のうえ、専門的な知識を有する委員が受傷の特徴や傾向等を分析し、その結果を、各対策委員会等に情報提供しています。</p> <p>セーフコミュニティの取組開始をきっかけに、2012 年度から、既存データではカバーできないヒヤリハットや、取組による市民の意識・行動の変化等を把握</p>	<p>用いられた方法は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>

<p>するため、市独自で事故やけがに関するアンケートを定期的の実施し、調査結果を取組の評価・検証等に活用しています。</p> <p>また、2014年度から、市消防局の協力を得て、より詳細な事故種別や発生場所等を把握できるよう改善した救急搬送データの収集・分析を開始し、性別・年齢別の受傷の特徴や傾向、受傷機転の把握などに活用しています。</p> <p>あわせて、市内の3病院の協力を得て、外傷による入院患者の主要診断名、治療費等が把握できる医療データの収集・分析を開始し、分析結果を市民の外傷予防意識の向上などに活用しています。</p> <p>さらに、自殺予防分野において、2015年から、年齢別の自殺原因を把握するため、国から自殺統計原票データを特別に集計したデータの入手、分析を開始し、効果的な予防の取組に活用しています。</p> <p>取組の評価・検証を行うため、これらのデータは今後も継続的に収集・分析を行います。医療データについては、救急搬送データなど既存の外傷データを補完するものとして、より有用な活用を図るため、データの抽出や分析の手法について検討を進める必要があると考えています。</p>	
<p>H.2 プログラム評価の結果はどのように活用されているか述べよ</p> <p>分野別対策委員会は、自分たちが進めている取組についてそれぞれ設定した短期、中期、長期の成果指標に基づき評価し、その結果を取組の改善等に活用しています。</p> <p>さらに、外傷サーベイランス委員会がサーベイランスによって得られたデータ等も踏まえ、それぞれの取組を評価し、その取組の改善策等を提示します。</p> <p>これらを年間活動報告書として取りまとめ、セーフコミュニティ推進協議会において、今後の活動の方向性を決定するための基礎データとして活用しています。</p> <p>このようなプログラムの評価の結果を活用し、以下のような改善を加えました。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○交通安全分野 <p>高齢運転者を第一当事者とする事故割合の増加などを受けて、安全運転サポート車の体験教室を2017年から取り入れた。</p> ○DV防止分野 <p>高校生に配付しているデートDV啓発誌について、学校の授業等で活用しやすく、より高校生の関心を引く内容となるよう全面的に見直しを行った。</p> ○防災・災害対策分野 <p>桜島の大規模噴火に備え、住民情報を登録したバーコード付きヘルメットを全住民に配付し、避難した住民を迅速に把握できる体制を整えた。</p> 	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>

<p>H.3 プログラムの結果による傷害パターン、傷害リスクに対する姿勢・行動・知識における変化を述べよ</p> <p>セーフコミュニティ活動に取り組んできたことにより、市民の知識・行動等に次のような変化が表れています。</p> <p>(例)</p> <p>○高齢者の安全分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・転倒予防教室の実施 <p>加齢による身体機能の低下を予防するためのトレーニング等を学ぶ転倒予防教室を継続的に開催してきたことにより、転倒予防には日頃からの体力づくりが必要であると認識している高齢者や運動を習慣化している高齢者の割合が増加しました。</p> <p>【転倒予防のための健康づくりの認識度】</p> <p>2016年 74.4%</p> <p>2019年 79.6%</p> <p>【運動を習慣化している高齢者の割合】</p> <p>2016年 39.8%</p> <p>2019年 76.4%</p> <p>○DV防止分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DV防止のための情報提供及び啓発 <p>DVへの理解や相談先の周知を図るため、カードサイズのDVリーフレットの作成・配布やパープルリボンキャンペーンなどの街頭啓発活動を継続的に取り組んだことにより相談先の認知度が向上するとともに相談件数が増加しました。</p> <p>【相談先の認知度】</p> <p>2013年度 44.9%</p> <p>2016年度 58.8%</p> <p>2019年度 79.7%</p> <p>【DV相談件数】</p> <p>2014年度 4,750件</p> <p>2016年度 4,962件</p> <p>2018年度 5,890件</p> <p>※その他の変化については、別添補足説明書 P52 以降の取組個票を参照</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
---	---

セクション I 【指標 7】	
<p>I.1 どのように国内・国外の SC ネットワークに参加し、連携しているかを述べよ</p> <p>鹿児島市は、国内外で行われる会議等に積極的・継続的に参加し、活動の内容や取組の成果について情報の共有・発信を行ってきました。</p> <p>特に国内においては、認証自治体との情報交換はもとより、国内のセーフコミュニティに取り組み地方行政で構成される「全国セーフコミュニティ推進自治体ネットワーク」に参加し、連携・情報共有を図っています。</p> <p>また、日本セーフコミュニティ推進機構主催のセーフコミュニティ研修会・定例会議に参加し、推進自治体との連携・情報共有を図っています。</p> <p>※詳細については、I.4 (P24~P25) を参照</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>I.2 認証式典は、何等かの国際会議、その他国際的なセミナーやフォーラム、国内の交流と併せて行う予定か</p> <p>市民のセーフコミュニティに関する理解や主体的な活動を促進するため、毎年開催している「セーフコミュニティ推進フォーラム」とあわせて認証式典を執り行い、式典後には、国際セーフコミュニティ認証センターや国内の推進自治体等と交流会を開催する予定としています。</p> <p>(別添説明書 P29 参照)</p>	

<p>I.3 どの認証コミュニティを招待する予定か</p> <p>国内の認証自治体及び認証に向けて取り組んでいる自治体（2020年9月現在15自治体）を招待するとともに、それらの自治体と共同でセーフコミュニティの取組を紹介するポスター展示などを実施する予定としています。</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>I.4 どの海外・国内の会議に参加してきたか</p> <p>鹿児島市は、前回の認証（2016.1）以降、次のように国内外のネットワークに積極的・継続的に参加してきました。</p> <p>[海外]（合計2回）</p> <p>2016.12 台湾台南市南区金華里住民等との意見交換会を開催（鹿児島県鹿児島市開催）</p> <p>2018.11 第9回アジア地域セーフコミュニティ会議厚木大会で特別講演及びポスター発表(神奈川県厚木市)</p> <p>[国内]（視察10回、認証式9回、研修会及び会議7回）</p> <p>2016.1 第4回日本セーフコミュニティ定例会議に参加（鹿児島市開催）</p> <p>2016.2 滋賀県甲賀市認証式典に参加</p> <p>2016.8 大阪府泉大津市現地審査に参加 JISC セーフコミュニティ研修会に参加（大阪府泉大津市）</p> <p>2016.10 大阪府泉大津市認証式典に参加</p> <p>2017.2 長野県箕輪町再認証現地審査に参加 第5回日本セーフコミュニティ定例会議に参加（長野県箕輪町開催）</p> <p>2017.7 JISC セーフコミュニティ研修会に参加（神奈川県厚木市）</p> <p>2017.10 福岡県久留米市再認証事前指導に参加</p> <p>2018.2 東京都豊島区再認証式に参加 福島県郡山市認証式に参加 第6回日本セーフコミュニティ定例会議に参加（福島県郡山市開催）</p> <p>2018.7 京都府亀岡市再々認証現地審査に参加 福岡県久留米市再認証現地審査に参加</p> <p>2018.8 大阪府松原市再認証現地審査に参加 JISC セーフコミュニティ研修会に参加（大阪府大阪市）</p> <p>2018.10 神奈川県横浜市栄区再認証式に参加</p> <p>2018.11 京都府亀岡市再々認証式に参加 大阪府松原市再認証式に参加</p> <p>2018.12 福岡県久留米市再認証式に参加 第7回日本セーフコミュニティ定例会議に参加（福岡県久留米市開催）</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>

<p>2019.7 埼玉県さいたま市現地審査に参加 2019.10 埼玉県秩父市再認証事前指導に参加 青森県十和田市再々認証現地審査に参加 2019.10 神奈川県厚木市再々認証事前指導に参加 2019.11 埼玉県さいたま市認証式に参加 ※JISC：日本セーフコミュニティ推進機構 (別添説明書 P132～133 参照)</p>	
<p>I.5 どの地域の SC ネットワークに加わる予定か (加わりたいか) ? (アジア、ヨーロッパ、環太平洋、アフリカ、ラテンアメリカの地域ネットワークがある)</p> <p>初度認証以来、アジア地域 SC ネットワークに加盟しています。</p>	<p>記述は十分か?</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か:</p>